

初台リハビリテーション病院

### 地域のイベント、本町まつりに参加しました

3月9日、渋谷区本町の町会をはじめとした様々な団体が、模擬店やステージパフォーマンスを行う「本町まつり」が、近隣の小学校のグラウンドで開催されました。当院は「リハビリ体験ゲーム」と「自助具や電動車いすの紹介」のブースを出して、イベントに訪れた多くの人たちや関係者の方々と交流しました。参加した職員にとって、地域とのつながりや期待を感じることができる、たいへん貴重な機会となりました。



船橋市立リハビリテーション病院

### 障がい者施設オーヴェルのパン販売会を開催しました!

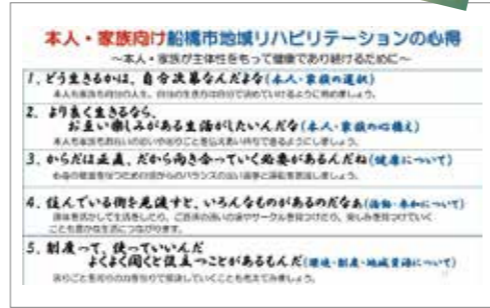
船橋市立リハビリテーション病院ではスタッフを対象に、近隣の障がい者施設「オーヴェル」で作られたパンの販売会を開催しました。販売されたパンはオーヴェルの皆さんがその日の朝に心を込めて作ってくださったものです。販売会には、たくさんの焼きたてのパンや焼き菓子が並び、多くのスタッフが訪れて温かい交流の場となりました。購入したスタッフからは「とても美味しい!」といった声が聞かれました。



船橋市リハビリセンター

### 第29回 船橋市地域リハ研究大会

3月12日 第29回 船橋市地域リハ研究大会をWeb方式で開催しました。ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会で3班に分かれて取り組んできた内容が報告されました。1班は地域リハ推進のための本人・家族向け「心得」、2班は障がい福祉の立場から、介護分野との連携の可能性、3班は管理栄養士・歯科医師・リハ専門職の連携による効果についての発表でした。110名の参加者からは、「明日からの実践に活かせる」との声が聞かれました。



在宅総合ケアセンター元浅草

### 『第7回 台東区地域リハビリテーション研究大会』開催報告

3月14日(金)に『第7回台東区地域リハビリテーション研究大会』が開催され、52名の参加がありました。台東区内でご活躍されている3つの専門職団体の先生方をお招きし、『台東区における専門職団体の現状と今後の展望』をテーマに発表とディスカッションをしていただきました。発表を通し「台東区を皆で支えあう」「職種間の垣根を越えて協力していく」という思いを共有することができました。また各専門職団体の創設時のお話も聞くことができ、今、私たちは過去から受け継いだバトンを託されているということを再認識できる場となりました。



在宅総合ケアセンター成城

### 砧地域ご近所フォーラムが今年も開催されました!

「顔の見える関係づくりを通じて、誰もがいつまでも安心して暮らせる地域づくり」を合言葉に、医療・福祉・教育・行政・その他地域で活動している多彩な人材で構成された仲間たちで企画するこのイベント。今年でなんと14回目を迎えました。今年度の実行委員長は当センターの医師。「防災」をテーマに当日は100名を超える参加者が集まりました。当センターの理学療法士も「体操のお姉さん」として途中出場。大いに盛り上がりました。



## 新入職員の皆様へ



理事長  
水間 正澄

新入職員のみなさん、医療法人社団輝生会への入社おめでとうございます。様々な厳しい状況を経て入社の日を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

長く続いたコロナ禍において、輝生会の各拠点でも困難な場面に幾度となく直面し、厳しい状況下での医療活動を余儀なくされておりました。しかし、日頃から培ってきた強力なチーム力によって乗り越え、質の高い医療を提供し続けることができました。

また、同様に制限を余儀なくされておりました各種のサービスについても徐々に再開しておりますが、コロナ禍から得られた教訓をもとに新たな環境整備などにも取り組みながら一層のサービス向上にも努めているところです。

輝生会は質の高い回復期リハビリテーション病棟、在宅総合ケア体制の確立、そして障がい児・者、要介護者、高

齢者等が安心・安全に普通に生活できる社会づくりを目指した地域リハビリテーション(地域包括ケア)の推進を事業の柱として先駆的な取り組みを20年以上にわたり取り組み実績を積んでまいりました。

特に今年は団塊の世代が全て75歳以上になる年であり、国が地域包括ケアの目標としていた節目の年にあたります。皆さんには、質の高いリハビリテーション医療の提供とともに、地域リハビリテーション(地域包括ケア)の意味を理解され、同僚や先輩とともに積極的に地域活動に参加して頂きたいと思っております。

また、組織改革も継続しておりますが、拠点間での医療の質の均等化を図り、組織全体としての質の向上を目指しております。輝生会の未来を見据えて次世代に繋いで行くことが出来るような組織作りも進めております。

皆さんには、輝生会の将来を担うチームの一員として研鑽を積み、ともに歩んで行く力となっていただけることを期待しております。



## 2025年4月1日 新入職員123名を迎えました

満開の桜の季節、あいにくの雨模様でしたが、東京都墨田区両国のKFCホールにて123名の新入職員を迎える入社式を盛大に開催しました。

多様な職種からなる新たな仲間たちに、水間正澄理事長は「輝生会ではすべての職種をリハビリテーション専門職として迎え入れています。患者さま・利用者さまの生活再建のために、それぞれの専門性を活かしながらチームとして力を発揮してください」と熱い言葉を贈り、一人ひとりに辞令を交付しました。

入社式では恒例となっているセコム株式会社専務取締役・セコム医療システム株式会社取締役会長の布施達朗様による特別講演も行われました。布施会長からは、セコムグループの概要説明とともに、輝生会との理念の共通点や、医療・介護の現場で求められるチャレンジ精神の大切さについて示唆に富むお話をいただきました。

入社式後から4月8日までは新採用者研修期間として設定され、チームアプローチとリハビリテーションマインドの体感、急性期から生活期までの流れの理解、多職種連携の基礎などを目的とした充実したプログラムが組まれています。回復期生活期支援部が毎年編集する研修テキスト「輝生会のキ」を活用し、法人概要や組織システム、遵守すべき事項、実践的な技術まで、輝生会の一員として活躍するための基礎を学びます。

季刊情報誌「輝NET」 編集・発行 医療法人社団 輝生会 本部/〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-9 5F <https://www.kiseikai-reha.com>

- 初台リハビリテーション病院 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-53-3 TEL.03-5365-8500 <https://www.hatsudai-reha.or.jp>
- 船橋市立リハビリテーション病院 〒273-0866 千葉県船橋市夏見台4-26-1 TEL.047-439-1200 <https://www.funabashi-reha.com>
- 船橋市リハビリセンター 〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-519-3 TEL.047-468-2001 <https://www.funabashi-rehacen.com>
- 在宅総合ケアセンター元浅草 〒111-0041 東京都台東区元浅草1-6-17 TEL.03-5828-8031 <https://www.motoasakusa-reha.com>
- 在宅総合ケアセンター成城 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-8-7 TEL.03-5429-2292 <https://www.seijo-reha.com>

輝生会の基本理念と方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「人間の尊厳」の保持</li> <li>■ 「主体性・自己決定権」の尊重</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「地域リハビリテーション」の推進</li> <li>■ 「ノーマライゼーション」の実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「情報」の開示</li> </ul>
輝生会における患者さまの権利	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人権を尊重される権利</li> <li>■ 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 最善の医療を受ける権利</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自らの意思で選択・決定する権利</li> <li>■ プライバシーの保護を求める権利</li> </ul>

## 理事新就任ご挨拶



理事兼本部  
回復期生活期支援部  
統括部長  
**川田 理恵**

この度、理事および回復期生活期支援部統括部長に就任いたしました。私がリハビリテーション看護の道を歩むきっかけを与えてくださったのは、創設者の石川誠氏です。2002年に輝生会に入職し、振り返ると多くの方々を支えられながら看護師としてのキャリアを築いてきました。

2020年には新型コロナウイルスによる大規模なクラスターが発生し、心身ともに疲弊し、挫けそうになった時期もありましたが、共に働く仲間や、患者家族会「コンパスの会」の皆さまからの励ましの手紙に支えられました。出会った方々とのご縁に感謝し、自分なりに恩返しをしたいと考えています。

2024年度の診療報酬改定において、回復期リハビリテーション病院は大きな影響を受けました。このような時こそ、「One for All, All for One」の精神を活かし、仲間と共に私たちの使命を全うし、挑戦を続けていきたいと思っております。



理事兼本部  
診療支援部  
統括部長  
**佐野 真**

私の職種は診療放射線技師ではありますが、診療支援部の部長として検査科・薬剤科・放射線科を担当し、3職種が関わる全ての拠点で、患者さまにとって最適な診断・治療環境の提供に努めてまいりました。

この度、理事という役割を拝命いたしました。これまでの経験を基に、患者さまが安心してリハビリテーションに取り組めるよう、引き続き安全で質の高い医療を提供するための体制を整えてまいります。

また、他部門の医療スタッフとも連携を強化し、患者さまの回復をサポートするために、最新の医療技術を取り入れつつ、地域に根差した医療機関となれることを目指してまいります。

法人内の5拠点すべてに関わる立場として、それぞれの施設の特性を活かしながら、より良い医療の提供に努めてまいります。今後も、皆様に信頼される医療機関であり続けるため、精一杯努力してまいります。



理事兼本部  
地域連携支援部 統括部長  
兼 SW・CM部門 部長  
**野口 陽介**

初台リハビリテーション病院の開設とともに入職し、その後、船橋市立リハビリテーション病院へ異動。SW部門の業務管理や人材育成に携わってまいりました。2021年には地域連携支援室を立ち上げ、前方連携の強化に尽力し、2024年より法人本部へ異動。現在に至ります。

私のモットーは「自ら考え、行動し、道を拓く」です。組織の成長には、一人ひとりが主体的に考え、行動することが大切だと信じています。

このたび、水間理事長のもと、理事に就任いたしました。これまで以上に前方連携を推進し、より多くのリハビリテーションを必要とする方々が輝生会につながるよう取り組んでまいります。また、社会の変化に柔軟に対応し、患者さま・ご家族・地域に貢献できるリハビリテーション、ソーシャルワーク、ケアマネジメントを提供するとともに、職員が働きがいを感じられる組織づくりにも努めてまいります。

## 第45回 回復期リハビリテーション病棟協会 研究大会 参加報告

2025年2月21日(金)・22日(土)の2日間にわたり、第45回 回復期リハビリテーション病棟協会 研究大会が札幌コンベンションセンターにて開催されました。

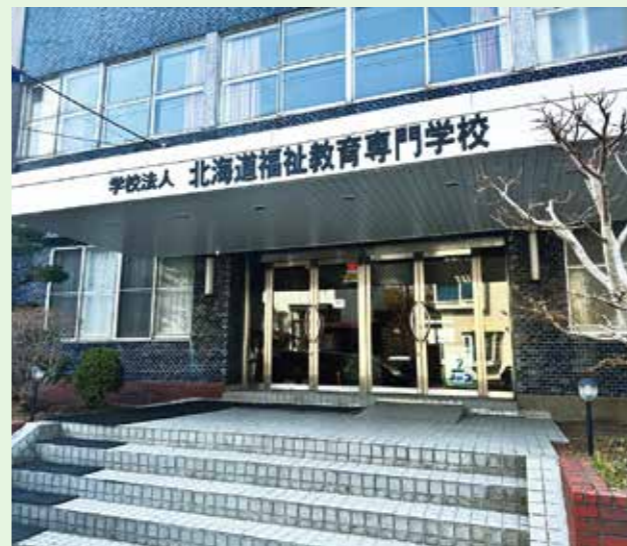


大会当日は、大雪に見舞われる中での開催となりましたが、全国の回復期リハビリテーションに携わる医療従事者が集い、参加者は約2,000名、会場は熱気で満ちあふれ、大変盛り上がりのある大会でした。

輝生会からは理事長をはじめ約30名が参加し、それぞれがシンポジウム、発表、座長の役割を担い、初めて発表に臨んだスタッフたちも立派にその役割を果たしていました。

基調講演では、リハビリテーション医療の未来に関する講演が行われ、高齢化社会における回復期病棟の役割や、地域包括ケアシステムとの連携について議論が深ま

## 学校法人北斗文化学園との人材協力



この度、医療法人社団輝生会は北海道室蘭市に位置する学校法人北斗文化学園へ介護人材協力の観点から学校訪問を行ってまいりました。

北斗文化学園は、介護分野を中心とした専門教育を提供する教育機関として、国際的な人材育成にも積極的に取り組んでいます。特にミャンマーからの留学生を多く受け入れ、彼らが自立支援介護士として必要な知識と技術を習得できるよう、充実したカリキュラムを提供しています。

当校を訪問した際には、ミャンマー出身の留学生たちと交流する機会を得ました。彼らは介護技術を学ぶ一方で、日本語能力の向上にも熱心に取り組んでおり、多くの学生が JLPT(日本語能力試験)N3～N2レベルの日本語力を身につけています。介護現場に必要な専門用語や敬語表現、コミュニケーション



技術にも焦点を当てた日本語教育が行われており、実践的な会話能力の育成に力を入れています。

留学生たちは日常会話だけでなく、介護記録の作成や申し送り、患者さんやご家族との対応など、実務で必要とされる日本語スキルを段階的に習得できるよう構成された言語プログラムで学んでいます。これにより、卒業後すぐに日本の介護現場で活躍できる人材として成長しています。この真摯な学びの姿勢と、それを支える北斗文化学園の教育体制に感銘を受け、この度、人材協力を行うこととなりました。介護分野における国際的な人材育成と交流を進めてまいります。

グローバルな視点を持ち、多様な文化的背景を理解した介護人材の育成は、超高齢社会を迎えた日本において欠かせない取り組みであると考えています。

りました。また、シンポジウムでは、リハビリテーション医療の質の向上や、ICTの活用による新たな取り組みが紹介され、各施設での実践に活かせる内容が盛り込まれており、最新の知見や実践事例を共有する貴重な機会となりました。

また、本大会の特別企画として、リハビリテーション病棟におけるユニフォームショーが開催されました。輝生会からも初台リハビリテーション病院、船橋市立リハビリテーション病院のスタッフが参加し、法人の紹介動画とともにチームアプローチを象徴する、「全職員が同じユニフォームで働く姿」が紹介されました。ユニフォーム姿でのランウェイではどの施設よりもスマートで輝いていたと思えました。

企業からは、従来の医療ユニフォームに比べ、機能性やデザイン性を重視した新しいユニフォームが紹介され、多くの参加者が関心を寄せました。動きやすさや清潔感に配慮したデザインが評価され、医療現場での導入に向けた具体的な意見交換も行われました。

今回の研究大会は、大雪というハードな状況の中でも、多くの医療従事者が一堂に会し、回復期リハビリテーションの今後について議論する貴重な場となりました。特に、新たなリハビリテーションの形や医療従事者の働きやすい環境づくりについて、多くの示唆が得られた点が印象的でした。今後もこのような機会を活かし、法人の取り組みを紹介していくことで回復期リハビリテーションの発展につなげていきたいと思っております。